

地塩

No.426

2022. 7. 31

目次

発行日 2022. 7. 31
 創刊 1926. 9. 10
 編集 蕃山町教会執事会
 発行人
 印刷人 山陽印刷(株)
 発行所
 岡山市北区蕃山町 2-15
 日本基督教団蕃山町教会
 TEL = (086)224-1322
 FAX = (086)224-1329
 三井住友銀行岡山支店
 口座 普通 0962358

礼拝説教 2022. 4. 3

「救い主の僕として」

ローマの信徒への手紙一章一〜四節
 牧師 服部 修

「使徒」って知っていますか？との問いに、「知っています」との答えが返って来ても、内容が異なる場合があります。教会関係者であれば、イエスさまの二人の弟子のことを思い出して「知っています」と答えますが、聖書のことを全く知らない人でも「知っています」と答えるケースもあるからです。これまでも紹介したことがあります。『新世紀エヴァンゲリオン』という作品に登場するキャラクターに「使徒」と呼ばれるキャラクターがいて、こちらを連想して「知っている」と答えるケースもあります。とは言え、このアニメのおかげで「使徒」という名称が広く知られるようになったことは、前向きにとらえれば、会話のきっかけにはなるので、それほど捨てたものではありません。いやむしろエヴァの熱烈なファンは全部で一八と言われている使徒の名前を明確に覚えています。クリスチャンでも二人の弟子の名はうる覚えだったりしますから、勝ち負けではないですけれど、負けてはいられないな、と思います。

さてパウロはローマの信徒に宛てた手紙の自己紹介のところで「使徒となつたパウロ」と述べました。「選び出され」とか「召されて」とも記されていますから、何かしらの修業を積んで、自分で努力して使徒になつたわけではありません。そもそも「使徒」という言葉自体が「遣わされた者」の意味です。従って、使徒自身が主人ではなく、使徒はどこまでも遣わされた者、ということが前提となつている言葉です。ですからパウロの表現は、「私ではなく、私を遣わした主人、すなわち、イエス・キリスト」にまず目を向けてください、の意であることが分かります。それは言い換えるならば、キリストが全ての中心にいる、ということ。しかしキリストをすべての中心に置く、ということが、私たち罪人である人間にとつて困難なことなのです。自分自身を神さま、イエスさまに明け渡さない、というあり方が聖書の語る罪であり、私たちはいつもその罪の中に生きているのです。

信仰とは、自分自身を一部分ではなく完全に明け渡すことです。だからこそ私たちはイエスさまを信じることに躊躇します。信仰がもし装飾品のように、気軽に着けたり外したりできるようなものであれば、もう少し信じやすかつたかもしれません。信じた時に信じて、信じたくなかつたら信じなくなつて良い、ということであれば、確かに心的な負担は少ないでしょう。現代風に言えば、信仰がサブスク(サブスクリプションの略)であるなら、誰もが気軽に信じ、気軽に解約し、信じることへのハードルは低くなるに違いありません。ところが聖書は、そしてパウロも、信仰を部分的に利用すれば良いですよ、気が向いたときに利用すれば良いですよ、とは言わず、かえってすべてを明け渡すように言うのです。だから私たちは「ちよつと待つてください」と答え、「今はまだ無理です」と尻込みするのは、なぜ聖書やパウロが、信仰はすべてを明け渡すこと、と言うのか。理由は明確です。それは神さまが私たちのことを愛し、また私たちを救うために、何の制限も、資格も求めておらず、私たちの状況に関わらず、愛と赦しをもつて向かい合つてくださるお方だからです。神さまの私たちに對する愛はサブスクではなく、常に全力の、無償の愛なのです。それは聖書が契約を大切にしている点からも確認することができます。

聖書は契約の書であり、それは神さまと私たち人間が命の契約を結んでいる、というのが根底にあります。そして神さまと命の契約を結んでいたはずの人間が、罪を犯して自らその契約を破棄したことが聖書の中に繰り返し語られます。「契約」ですから、本来その契約が破棄されたら契約は履行しなくても良くなります。卑近な例として商品を購入した際の保証書を考へていただければ分かりやすいかもしれま

せん。「この商品を購入した日から一年間保証します」という契約を私たちは購入時に売り手と結びます。ですから契約期間内であれば、保証書が保証する範囲内での保証であれば、ほぼ無償で修理、あるいは交換に応じてくれます。しかし期間を一日でも過ぎた途端に、昨日までなら無償の修理が有償になってしまふ。つまり契約の期間が過ぎたので、契約を履行する必要はなくなるのです。神さまと人間の契約に関して、神さまがそれと同じように考え、応じておられるのであれば、人間が自ら契約を破棄した時点で、もしくは著しい不履行が発生した時点で、「あなたが契約に対して不履行なので、私もあなたが愛すること、あなたを救うこと、あなたを赦すことを止めます」と宣言したとしても、「契約」という概念から言えば全く間違っていないし、むしろそれこそが契約の本質です。それなのに神さまは契約を破り、あるいは契約不履行の人間に対して、「それでも私はあなたを愛する」と宣言してくださる。それは保証書の期間がとつくに過ぎていゝのに、無償で直し、保証書が保証しない使用方法で壊したのに、無償で直してくれるようなものです。

そもそもパウロはかつてキリストを迫害する者でした。言うなればキリストに敵対する者であり、普通に考えればパウロは愛の対象外であったとしてもおかしくはないし、敵対しているのだから愛さないと宣言されたところで、「常識的に考えればそれが妥当ですよ

ね」と言わざるを得ないところですよ。にもかかわらず、契約外、保証外の私がおおそこで愛され、赦され、選り出され、召されて使徒とされたのならば、私がお方に対して応じられるのは、もはや私のすべてを明け渡し、このお方の僕として、このお方の意思を遂行するために生きることしかないと、それこそが何物にも代えがたい喜びとなる、との恵みにパウロは気付かされたのです。前述のように、神さまの愛が気まぐれであったり、サブスクであったりするのなら、私たちの信仰も、信じたい時に信じ、信じたくなくなったら信じない、でも一向に構いません。けれども神さまの愛が常に全力で、保証外のものまで保証し、しかも全力の愛であることが御子の十字架の死によって示され、復活による死への勝利によつても示されたのならば、私たちも、部分的に、気まぐれに信じるのではなく、救い主の僕として、すべてを明け渡して生きるところに希望を見出すのです。神さまの全存在をかけた愛に対して、私たちも全存在をかけて応える。その全力の応答が喜びとなるのです。

にもかかわらず、私たちは神さまの愛に全力で向き合うことに、クリスマスチャンでありながらも、尻込みし、失敗し、挫折することがあります。私たちが生きていゝ中で、そのようにありたいと願ひながらも、実際には神さまにすべてを明け渡すことを後回しにしてしまうこともあります。私たちは契約違反、契約不履行を何度も繰り返

ています。気分の良い時には信じ、悪くなつたら信じない。反対に、困ったときには信じ、困難が解消されたら信じない。そのような中途半端な信仰生活しか送れないような私たちなのです。

でも、「私が洗礼を受けた」という事實は、少なくともそのときにはすべてを明け渡したという事実です。その意味でクリスマスチャンはすべてを明け渡した経歴をしているし、神さまはそれを誰よりも喜んでくれました。だから私たちもフラフラしながらでも、主の僕として生きようと願うのです。そのように欲したとき、再び神さまの全力の愛を思い起こし、「そうだ、悔い改めて主の僕として生き始めよう」と告白し、喜びを新たにすることが出来る。あるいはそういうことの繰り返しだが、洗礼というすべてを明け渡す体験を経た私たちの生きざまだと言えるのかもしれない。そしてそのような優柔不断な者をさえ見捨てることなく全力で愛してくださっていると知っているからこそ、救い主の僕として生きることがを人生の喜びとすることが出来るのです。

それでも私たちの迷いは尽きないかもしれません。しかし私たちに對する救い主の愛に迷いは一切ありません。全力で敵をも愛し、僕にするほどの覚悟を決めた愛に愛されている。今あなたはその愛によつて愛されています。それゆえに選り出され、召されたクリスマスチャンとして感謝しつつ生き、この愛に、今もイエスさまが招いておられる恵みを伝えていきたいのです。